

三野町の盆棚

民俗班 (徳島民俗学会)

庄武 憲子^{*1}

1. はじめに

盆は、本来、家の先祖の霊を迎えまつる行事であったとされる [柳田 1969 71、91頁]。しかし実際には先祖の霊のほかに、餓鬼仏や無縁仏などというまつり手のない死者の霊 (以下無縁仏と表記する) や、亡くなって1年以内の故人の霊 (以下新仏と表記する) を迎えまつるとする風習も伝えられ [柳田 1969 71~72頁]、盆に先祖、無縁仏、新仏の三種の霊をまつるにいたった成り立ちを考えることは、民俗学の研究の課題の一つとなっている。

盆に三種の霊を迎えまつるために特別な棚を設ける風習があり、これを総称して「盆棚」という。盆棚は、地域によって、呼称や形態、設置される場所、さらにはまつる対象などに様々な変化が見られる。この盆棚の様相を把握し整理することは、盆にまつられる三種の霊の位相を考察する方法の一つとされてきた [喜多村 1988 144~172頁 / 高谷 1988 173~197頁]。

徳島県内においても盆棚をつくる風習は存在し、多様な変化があることが報告されている [徳島県教育委員会編 1979 136~137頁]。盆棚をつくる風習は行われなくなってきているが、できる限り事例を収集し、記録しておくことは、盆行事の成り立ちを考えるにあたって重要なことと考える。

本稿では、三野町に伝えられる盆棚の風習について調査によって得た情報をまとめたものを報告する。

調査は、7月23日・24日・29日に行った。芝生^{しほう}在住2名、加茂野宮在住3名の情報提供者から盆棚に

ついでの聞き取りを行った。

2. 事例

盆棚についての聞き取りは、次のような項目にわけて行った。a 棚の呼称、b 棚を設置する場所、c 棚の形態、d まつる対象、e 供物とまつり方、f 先祖のまつり方、g 檀那寺と宗派。情報提供者の居住地と生年、性別と項目にそった聞き取り内容を列記したものが表1である。

3. まとめ

調査では、現在でも盆棚をつくるとする情報は得られなかった。また、5名の情報提供者のうち表1事例①②④の3名に盆棚をつくるという風習についての記憶がなかった。三野町は、盆棚をつくるという風習が希薄な地域であったと考える。

盆棚についての記憶を持たない事例①②④は、いずれも浄土真宗の寺を檀那寺としている。浄土真宗では一般に儀礼を簡略に行い、盆に棚をつくり、供物をする風習を持たないとされる [福田・新谷・湯川・神田・中込・渡邊編 2000 710頁]。三野町内には、現在、加茂宮に滝寺 (真言宗)、勢力に青蓮寺 (真言宗)、芝生に長好寺 (真言宗)、花園に光泉寺 (浄土真宗) の4つの寺があり [三野町誌編集委員会編 1974 45、72、168、235頁]、真言宗の寺院が多い。しかし、町内にある光泉寺の他に、県境を越えた香川県琴南町の長善寺、また隣町的美馬町の西教寺など浄土真宗の寺院を檀那寺とする家が相当数ある [大正5年生男性芝生在住・2002.07.23 /

*1 徳島県立博物館

表1 三野町の盆棚

事例①	芝生 情報提供者：大正5年生男性
a 呼称	なし
b 場所	なし
c 形態	なし
d まつる対象	なし
e 供物とまつり方	なし
f 先祖	なし
g 檀那寺（宗派）	美馬町西教寺（浄土真宗）
事例②	芝生 情報提供者：大正5年生女性
a 呼称	なし
b 場所	なし
c 形態	なし
d まつる対象	なし
e 供物とまつり方	なし
f 先祖のまつり方	仏壇にそうめん、シンコダンゴ（米をひいた粉にソラマメなどの餡を入れたもの）、池の月（菓子）を供えた。（嫁いだ後に行っていたことである。）
g 檀那寺（宗派）	生家：美馬町西教寺（浄土真宗） 婚家：徳島市光仙寺（真言宗）
事例③	加茂野宮 情報提供者：昭和4年生女性
a 呼称	不明
b 場所	家の前
c 形態	竹を三本組み合わせ、三脚のように立てたものの上に、里芋の葉を敷き供物を供えた。
d まつる対象	先祖
e 供物とまつり方	13日の晩に棚をつくり、コイモ（里芋）の葉の上に茄子を角に切ったものコイモ（里芋）、トウモロコシなどを供えた。横に台を置きそうめんと団子を供えた。杓で水をかけ、棚を拜んでいた。祖父がしきたりとして行っていて昭和27、8年頃まで行っていた。祖父が亡くなってからは、行わなくなった。
f 先祖のまつり方	仏壇にはそうめん、団子をまつる。
g 檀那寺（宗派）	生家：滝寺（真言宗御室派） 婚家：光泉寺（浄土真宗）
事例④	加茂野宮 情報提供者：昭和3年生男性
a 呼称	なし
b 場所	なし
c 形態	なし
d まつる対象	なし
e 供物とまつり方	なし
f 先祖のまつり方	なし
g 檀那寺（宗派）	三野町光泉寺（浄土真宗）
事例⑤	加茂野宮 情報提供者：大正14年生男性
a 呼称	ショウロウダナ
b 場所	墓前
c 形態	笹竹を四本立て先を結び、上方に簀を置き、コイモ（里芋の葉）を敷く。
d まつる対象	先祖
e 供物とまつり方	棚に茄子を小さく刻んだものと洗米を供える。
f 先祖のまつり方	13日か14日に墓前で迎え火を炊き、墓に供えたハナシバ（檜）を家に持って帰り仏壇前にいけることで先祖を迎える。仏壇には団子をお供えする。新仏の場合は床の間に位牌を置き、床の間でお供えをする。
g 檀那寺（宗派）	滝寺（真言宗御室派）

昭和3年生男性加茂宮在住・2002.07.23／大正14年生男性加茂宮在住・2002.07.29。町内に浄土真宗の檀家数の割合が多い状況が、盆棚についての伝承を希薄にする要因になっていると考える。

続いて三野町内で行われていたとされる盆棚の内容についてみる。新仏のある家は、14日に墓地へ行って供物をし、今年竹で編んだすの上でこえ松をたくという、盆棚をつくる風習があったことを窺わす事例は報告されている〔三野町誌編集委員会編

1974 388頁〕。新たに事例③④から真言宗の寺を檀那寺とする家では、家の前もしくは墓前の屋外に、先祖をまつる対象とした竹製の盆棚をつくることとしていたことがわかった。また、先祖の霊を盆棚でまつる他に、仏壇にも供物をし、盆棚と仏壇の2つのまつり場で盆に先祖の霊をまつるとしている。一方、16日に寺で施餓鬼行事は行われているが〔大正14年生男性加茂宮在住・2002.07.29〕、盆棚で無縁仏をまつるとする例は窺えない。一般的に先祖の霊は屋内

で、無縁仏や新仏は屋外でまつられることが多いとされる [最上 1988 88]。屋外につくる盆棚で、無縁仏や新仏ではなく先祖をまつるとする三野町の例は特徴的なものと考えられる。

4. おわりに

先祖の霊は屋内でまつられることが多いとされる中で、今回確認できたように、屋外の盆棚で先祖をまつる例があることから、盆のまつりは本来屋外の盆棚で行われていたものが、仏壇と位牌が定着することによって屋内で行われるようになった変遷が指摘されている [最上 1988 102頁／喜多村 1988 166頁／高谷 1988 195頁]。一方、盆にまつるとする先祖、新仏、無縁仏の位相については、無縁仏または新仏の霊を鎮めるため屋外でのまつりが起こった後、屋内での先祖まつりが盛んになって、無縁仏、新仏のまつりが屋内の先祖まつりに吸引されたとする説 [最上 1988 102頁]、屋外で何らかのまつりが行われていたのが、先祖と無縁という概念が取り入れられ、三種の霊のまつりに分化していったという説 [喜多村 1988 166頁]、屋外での先祖のまつりが屋内に移っていく際に、屋外のまつり場に、無縁をまつるとする説明がつけられたという説 [高

谷 1988 192頁] などさまざまな変遷が想定されている。

無縁仏をまつらず、屋外の盆棚で先祖をまつるとする三野町の例が、盆に三種の霊をまつるにいたった変遷のどのような位置を示すか判断はできない。ただ、指摘されてきた盆棚の様相の傾向とは異なっている点から、盆行事の成り立ちを考えるにあたって重要な資料になると推察する。

謝 辞

調査にあたって御協力くださった、5名の情報提供者の皆様へ心よりお礼申し上げたい。

文 献

- 喜多村真理子 (1988) : 「盆を迎える霊についての再検討」、大島建彦編『無縁仏』岩崎美術社、144～172頁。
- 高谷重夫 (1988) : 「餓鬼の棚」、大島建彦編『無縁仏』岩崎美術社、173～202頁。
- 徳島県教育委員会編 (1978) : 『徳島県民俗地図 徳島県民俗文化財緊急分布調査報告書』徳島県。
- 福田・新谷・湯川・神田・中込・渡邊編 (2000) : 『日本民俗大辞典 下巻』吉川弘文館。
- 三野町誌編集委員会編 (1974) : 『三野町誌』三野町役場。
- 最上孝敬 (1988) : 「盆の祭り」、大島建彦編『無縁仏』岩崎美術社、87～103頁。
- 柳田國男 (1969) : 「先祖の話」、『定本柳田國男集第十巻』筑摩書房、1～152頁。